

めがねのまち 鯖江

さばえのおと

まちに息づく ものづくり
歴史に触れる まち歩き

お問い合わせ

鯖江市商工政策課

〒916-8666 福井県鯖江市西山町13-1
Tel.0778-51-2200(代) Fax.0778-51-8153
Tel.0778-51-2230(直)

鯖江観光協会

〒916-8588 福井県鯖江市本町3-2-12
Tel.0778-51-2800 Fax.0778-51-8118

鯖江市観光案内所 (JR鯖江駅構内)

〒916-0053 福井県鯖江市日の出町1-2
Tel.0778-51-2229 Fax.0778-51-2229

鯖江市H.P. <http://www.city.sabae.fukui.jp>

鯖江商工会議所H.P. <http://www.sabaecci.or.jp>

鯖江市観光H.P. [さばかん] <http://www.city.sabae.fukui.jp/users/kanko/>



目次

まちに息づく ものづくり

- 02 眼鏡のこと
- 06 繊維のこと
- 08 漆器のこと

歴史に触れる まち歩き

- 12 鯖江藩の面影残る まちなか地区
- 14 兵営の町として栄えた 神明地区
- 16 近松門左衛門ゆかりの地 立待地区
- 18 越前うるしの里 河和田地区
- 19 日本の歴史公園100選 西山公園

主なイベント&鯖江の農産物

MAP&アクセス

眼鏡、繊維、漆器。

昔からものづくりが盛んな町として歴史を刻んできた鯖江市。
先人の伝統を継承しながらも新たな開発や先端技術を取り入れ、
“ものづくり産業のまち”として発展を続けています。

鯖江のいろんな写真や情報を書き込んだ“ノート”、
どこか懐かしい鯖江の街並みや風景から響いてく
る“音”。このふたつの意味を表現し『さばえのおと』
としました。この冊子でちょっとした旅気分を味
わってみてください。

眼鏡産地になった理由

視力を助けるためだけでなく、ファッションアイテムとしても需要度の高い眼鏡。国内で生産される眼鏡フレームの90%以上が鯖江産地で作られているって知っていますか？

明治38年、この地に住む増永五左衛門が大阪や東京から眼鏡の職人を招き、村人たちに製造技術を伝えたことが鯖江と眼鏡の出会い。当時は、増永一期生を責任者とした製作グループ（帳場をいくつも編成し、徒弟に修行させながら仕事をまとめていく仕組みのもと眼鏡が作られました。そして帳場ごとに職人が競い、腕を磨くことで分業独立が進み、現在のような一大産地へと発展したのです。

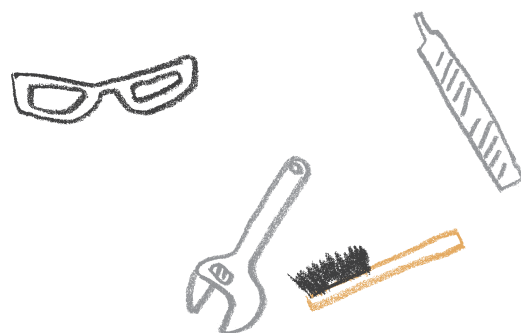
今や鯖江市には眼鏡に関する企業や職人が集まっており、地域全体が眼鏡工場に。眼鏡棒作りの技術は100年経った現在も受け継がれ、日々、進化をたどっています。

受け継がれる職人の匠の技

鯖江の眼鏡産業の祖・増永五左衛門を祖父に持つ増永誠さんは、この道60年以上の熟練職人。今でも現役でセルロイド製の眼鏡フレームを作っています。

一つのフレームが完成するまでには100以上の工程があり、かつてはすべて職人の手によって作り出されていました。今は機械に任せる工程もありますが、「感覚的な」ふんわりとした丸み“は機械ではできません。6種類の工具を使って長年の経験と勘で削るんや”。まだまだ手仕事が必要な役割を果たしています。中でも一番難しいのが“磨き”。切削後の断面や表面を滑らかにしたり、艶を出したり、傷や汚れを消したりする作業で、素材や加工によってバフと研磨剤を使い分けます。こちらも長年の熟練を要し、増永さん自身、本当に納得するものができるようになるまでに約20年かかったほど。

ど。わずかな傷も汚れないように、段階に分けて複数の人の目で確認します。「工場では1000枚、2000枚と作るけど、お客さんが買うのはたったの1枚。常にお客さんの身になって1枚1枚大事に作らんといいかん」。本家から受け継いだ『増永イズム』を次世代の職人へと伝承しています。



① 粗抜き／レンズ部分を粗く抜きます。これがフレーム作りの始まりです。



② 外径の切削／フレームの外側を削ります。これでメガネの形状になります。



③ キサギ掛け／研磨しやすいように刃物で削り、形状を整えます。



④ バフ研磨／モーターで高速回転するバフに、フレームを押し当てて磨きます。

世界に誇る鯖江の眼鏡 100年余の歴史をたどって

17歳でこの世界に入り、眼鏡作りのイロハを学んだ増永さん。ほぼ毎日現場に行き、長年培ってきた技術を若い職人たちに継承しています。

鯖江の繊維のルーツとなった”石田縞”とは？

鯖江市では古くから織物が生産され、1134年には平織りの絹織物である八丈絹を年貢として納めたことが文献に残されています。

石田縞が誕生したのは江戸時代後期。寝具地や普段着をはじめ、明治期には学校の制服に指定され、広く愛用されていました。その頃、石田縞はお洒落着だったのでしょうか。ある女学校では縦縞の着物に袴という制服が少女たちの憧れでした。しかし、大正期になると他の綿織物の生産が増え、昭和には洋服が普及して需要は急速に縮小。石田縞は終わりを告げました。



幻の織物となった石田縞ですが、昭和47年に数人の作家によって復元を果たします。まったくの手探り状態から始まり、織機自体の修復や経糸の張り方、柄の調整など、半反を織るのに8ヶ月もの月日を要しました。その後は多くの人々から愛される織物として、現在に至っています。「バツタン、トントン、カラカラ」今日もまた手織りセンターでは、新たな歴史を織り出す音が響き続けています。



独特の風合いを持つ当時の石田縞。

石田縞手織りセンター

本格的な織り機を使って、手織り体験ができます。

[体験コース]

●初心者コース ※要予約

お子様にも出来るコースター作りです。

体験日／平日および第2・4土曜日

体験料／500円

所要時間／約20分

●クラフト表装 ※要予約

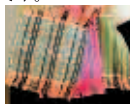
糊や刷毛を使わず、誰でも簡単に

短時間で作れる掛け軸です。

開催日／毎月第4火曜日

時間／13:30～15:30

参加料／2,000円



【お問合せ】

■協同組合鯖江市繊維協会

鯖江市札町32-1-1 (鯖江市繊維会館内)

Tel.0778-52-1880

<http://tutuji.com/sabaeseni/ishidasima.html>

女学校の
制服として
採用されたそう



世界をリードする 繊維産地を目指して

鯖江の繊維産業の幕開けは、輸出向け羽二重織物の生産が始まった明治20年頃です。以来、「繊維王国」福井の中でも、常に中心的な役割を果たしてきました。しかし近年は、市場経済のグローバル化や輸出環境の変化、内需の多様化、産地間競争の激化などの影響もあり、厳しい局面に立たされています。

鯖江市では、繊維に関する業態のほとんどが揃うという地域性と今までの経験を生かして、医療や電子産業などさまざまな分野での可能性を模索し、産地の活性化に前向きに取り組んでいます。



現在は合成繊維が産業の中心になっています。

”時を超えて現代に蘇った 幻の織物” 石田縞

懐かしさを覚える心地良い織機の音。
一本一本手で糸を織り込み、きれいな
縞模様を作り上げていきます。

右3

右3



ゆっくり塗っていたのでは垂れたり、ムラができてしまうのでスピードが命。薄く、均一に、素早く。これぞ職人技です。



木地の仕上がりがいいと、最後の工程までがきれいに仕上がります。大きさ、形ともに同じように作り上げていきます。



語り継がれる伝説 漆器づくりの始まり

国の伝統的工芸品の指定を受けている越前漆器。その始まりは今を遡る約1500年の昔。第26代継体天皇が王子の頃、壊れた冠の修理を命じたところ、塗師は漆で修理をするともに黒塗りの三つ組碗を献上。皇子はその見事な出来ばえに感動し、漆器づくりを奨励したのが始まりといわれています。

江戸末期になると京都から蒔絵、輪島から沈金の技術を取り入れ、越前漆器に華麗な装飾性が加わります。また明治半ばには、それまで製品といえば丸物（碗類）がほとんどだったのが、角物（膳類）なども作るようになり、重箱や手箱、盆、菓子箱、花器と一挙に製品が多様化。旅館やレストランなどで使う業務用漆器の販路開拓で東京、大阪、名古屋などの大消費地に進出し、越前漆器は広く愛用されるようになりました。

一つ一つの工程に キラリと光る職人技

1500年もの間、受け継がれてきた伝統技法。木地、塗り、加飾など生産工程が分業化されており、各工程の職人の手をわたって器が作られます。

まずは木地作り。碗などの丸物はろくろを回しながら、何種類ものカンナを使って木地を挽き、滑らか肌のまあるい形を生み出していきます。また、カンナ作りも木地師の仕事の一つ。砥ぐことはもちろん、曲げたり叩いたりして道具を作っています。木地が出来上がると次は塗り。「塗り→乾燥→研ぎ」を何度も繰り返す下塗りは、漆器の仕上がりを左右する大切な部分。研ぎをしつかりしないと漆がきれいに乗りません。上塗りは均一の厚さに塗る熟練の技。漆を乾燥させるための一定の温度と湿度を保つ環境が必要。漆は湿度が高いほど乾きやすく、まさに鯖江の風土に適しています。

約1500年の歴史ある 日本最古の漆器産地



職人の技と手の感触で均一にお碗を挽いていく木地作り。挽き過ぎるとやり直しができず、作業には根気と集中力が必要です。

伝統技術と現代技術の融合 越前漆器の新しい取組み

多くの人の手を経て完成する越前漆器。
深く美しい色合いは、使う人の心を和
ませ、生活に潤いを与えてくれます。



週替わりランチ／700円

喫茶「椀椀」

鯖江市西袋町40-1-2（うるしの里会館内）
※毎週土曜・日曜のみの営業
営業時間／10:00～16:00



筆は猫の毛を使って
いるものが多いそう
ニャー

世界に誇る 日本独自の蒔絵技法

最後の工程は漆器を彩る加飾です。その技法はさまざまで、現在最も多く行われている加飾の一つに蒔絵があります。

蒔絵は、筆に漆を含ませて模様を描き、漆が乾かないうちに金粉などを蒔きつけ、研ぎ・磨きを繰り返すという伝統的な技法。一工程描くと1日乾燥させなければいけない地道な仕事です。また、表面に模様を彫り、金箔、金粉を押し込む沈金という技法もあり、これらの色鮮やかな絵柄は海外でも芸術品として評価されています。

いくつかの工程と職人の手を経て作られる漆の器。その魅力は使ってみて初めて分かるものです。『うるしの里会館』内にある喫茶「椀椀」では、料理をはじめ、コーヒーやケーキなどすべてのメニューに越前漆器が使われ、実際に触れることができます。



木地づくりの技を生かした
新感覚のインテリア雑貨。



うるしの里会館

漆器の歴史と技術を紹介しているほか、絵付け、沈金、拭き漆が体験できます（要予約／各1,500～2,500円）。また、ショップではさまざまな漆製品が販売されています。
鯖江市西袋町40-1-2 TEL.0778-65-2727
営業時間／9:00～17:00
定休日／毎月第4火曜日



時代に対応した 新たな”ものづくり”

越前漆器は伝統的な木製の器だけでなく合成樹脂素材や化学塗料を使った、より安価で丈夫な商品を消費者に提供しています。現在では全国の業務用漆器（外食産業用）の8割以上を生産する産地へと成長。さらには、食器洗浄器や乾燥機などの機械に対応した漆器の開発、プラスチックをはじめとした素材などのリサイクルの提唱や仕組みを模索し、時代に合わせた”ものづくり”が進められています。

また近年、パソコンのキーボードやマウス、時計、ティッシュBOXなど、越前漆器の技術から生まれたインテリア雑貨が話題になっています。ユニークなこれらの商品は、もちろん職人が一つ一つ手作りのものです。木地作りの技と、その心に共感した企業やデザイナーとのコラボレーションは、越前漆器に新たな風を起こしています。



レトロな洋館

さばえB級グルメ

さばえ焼きイナリ

裏返した薄揚げの中に各店オリジナルの具材が入り、いろいろな味が楽しめる。鯖江市内の14店舗で発売されています。問合せ／0778-51-2800(鯖江商工会議所まちづくり企画部)



さばえB級グルメ

サバエドッグ

福井産コシヒカリを国産豚肉で巻き、サクサクに揚げて特製ソースにつけた、“歩きながら食べられるソースかつ丼”です。問合せ／0778-52-4129(ミート&デリカ ささき)



恵美写真館洋館・表門

明治38年に西洋の建築を真似て建てられたものです。外観には大理石や鳳凰の模様があしらわれ、優れた塗装職人の技術が見受けられます。表門は、銅板をおったアーチ状の屋根に和風の門構えで和と洋を取り入れたスタイルに。[国登録有形文化財]
※ご見学を希望される方は事前にご連絡ください。
問合せ／0778-51-0160(恵美写真館)

さばえスイーツ

昔から仏事用の和菓子店が数多く存在し、まちのあちこちでさまざまなスイーツに出会えます。



王山古墳群

弥生時代後期(3世紀)から古墳時代中期(5世紀)にかけての総数51基の古墳が見られる王山古墳群。古墳公園として整備されており、山上からは街ながが一望できます。出土した土器や副葬品は「鯖江市まなべの館」に保管・展示されています。[国指定史跡]



萬慶寺

永平寺の直寺として続いている鯖江藩主の菩提寺。本堂の天井には7代藩主・間部詮勝(まなべあきかつ)による風神、龍神、雷神の水墨画が描かれています。また、山門は江戸時代末期の建築物で禅宗様式の楼門です。[鯖江市指定文化財]
※水墨画のご見学を希望される方は事前にご連絡ください。
問合せ／0778-51-0489

鯖江藩の面影残る まちなか地区

歴史と文化に触れる名所や旧跡など、4つの地区の見どころを私たちが紹介します。

鯖江まち歩き



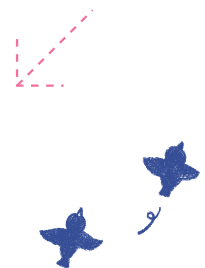
地藏橋

天正年間の戦いの際、長泉寺を守ろうと橋を壊した朝倉に対して、織田は石地藏を川に投げ込んで埋め、その上を進みました。その後、夢でお告げを受けた長泉寺の僧が石地藏を引き上げて旧北陸道の小川の橋にしたとの言い伝えがあり、地藏を踏むと災難よけになると言われています。



誠照寺

浄土真宗10派本山の一つ。現在の「御影堂(ごえいどう)」は明治10年に再建されたもので、県内最大規模の木造建築物です。また、本山最古の建築物「四足門(しそくもん)」には「駆け出しの龍」の彫刻があり、本物さながらの精巧さに鳥が寄りつかず、「鳥棲(とりす)まずの門」とも呼ばれています。[鯖江市指定文化財]



間近で見ると
迫力あるなあ

兵営の町として 栄えた神明地区

明治30年（1897年）、ロシア東方政策に対抗して陸軍師団が増設されたことにより、神明村に陸軍鯖江歩兵第三十六連隊が設置されました。兵営は神明社の西側を中心とした広大な敷地に置かれ、その前には商店街が形成され栄えています。

太平洋戦争終結後、三十六連隊は廃止され、跡地には公立病院や住宅地、眼鏡枠工場などが建設されました。その中で「三六町」という町名と、移築されたレンガ造りの兵営の正門だけがかつての三十六連隊の面影を残しています。



神明駅（しんめいえき）

福武電気鉄道兵営駅（現・神明駅）が作られたのは大正13年（1924年）。主に兵隊を送ったり、商人の運輸送機関として利用されていました。当時は現在と反対側（東側）に駅舎があり、今も残されています。



兵営図看板（へいえいずかんばん）

兵営の跡地（現在の三六公園）には、鯖江歩兵第三十六連隊兵営図（タテ3m×ヨコ6m）の看板が設置され、当時の連隊の様子が分かります。

駅に到着～



おきーい
看板。



鯖江歩兵第三十六連隊営門

（さばえはへいだいさんじゅうろくれんたいえいもん）

日清戦争の後、鯖江市に三十六連隊が設置されました。その歴史を伝えるために昭和31年、三六武道館横に「鯖江連隊史蹟碑」が建てられ、南前方には兵営にあった営門が移築されています。



兜山古墳（かぶとやまこふん）

北陸最大級の円墳で、一重ねの鏡餅のような姿をしています。古墳の頂上には八幡神社があり、古墳全体がその境内になっています。[国指定史跡]



旧瓜生家住宅

（きゅうりゅうけいけいけい）

神明社に仕える瓜生氏のお屋敷。現在残っている母屋は元禄12年頃に建てられたもので、現存する民家としては丸岡町の坪川家住宅（千古の家）と並んで県内最古の建造物です。毎週月・水・土・日曜日の開館日には囲炉裏が焚かれます（10:00～16:00）。[国指定重要文化財]



歴史の道（れきしのみち）

旧北国街道の宿場町として発達した水落町（みずおちちょう）。この付近には、当時の風情が感じられる建物が多く残されています。



嶺北忠霊塔

（れいほくちゅうれいとう）

昭和16年、陸軍歩兵第三十六連隊所属の戦死者の霊を祀るために忠霊塔が建てられ、日中戦争以降の遺骨（2万5千余柱）が納められました。塔内は正面に骨仏、光華阿弥陀如来が安置されています。



さばえB級グルメ
三六サラダ焼き
ロースハム、カイワレ、マヨネーズがたっぷり入った今川焼です（1個100円）。
問合せ／0778-54-0690（タイムバーガー）



神明社（しんめいしゃ）

5世紀半ば、伊勢神宮天照大神を祀って文殊山南麓に創建された神明社。その後、大治4年（1129年）に現在の烏ヶ森（からすがもり）に移され、江戸時代初期の建築様式を今に伝えています。[鯖江市指定文化財]



七つの曲り角を
探せるかな。



近松門左衛門坐像

(ちかまつもんざえもんざぞう)

「国性爺合戦」「曾根崎心中」などの代表作を生み出し、「東洋のシェイクスピア」と称される近松門左衛門。作品を執筆しているかのように筆を走らせる姿をしています。



吉江七曲り通り

(よしえななまりどおり)

吉江藩2万5千石の城下町の面影が残る街並み。敵やよそ者が侵入しても簡単には通り抜けられないよう、7つのカギ型に曲がりながら通っています。



春慶寺

(しゅんけいじ)

奈良時代に建てられたもので、春慶寺となる前は泰澄大師が白山修行に行く時に立待にあった草庵に名づけた「心敬寺」とされています。また、近松門左衛門が幼少の頃、この寺の一角を借りて住んでいたと言われています。



榎お清水

(えのきおしょうず)

春慶寺山麓にあるお清水です。千古の昔より湧き出しており、吉江藩のお泉水として利用されていました。旅人はお不動様に手を合わせ、このお清水で喉を潤したと言われています。平成22年「ふくいのおいしい水」に認定。



近松の少年時代をモデルにしたキャラクター。「ちかもんくん」の愛称で親しまれ、町の所々で出会うことができます。



立待公民館前にある記念碑と胸碑。

井原西鶴、松尾芭蕉とともに元禄三大文豪と呼ばれ、浄瑠璃・歌舞伎作家として有名な近松門左衛門。父は福井藩分家の吉江藩士で、越前の武家の次男として生まれました。近松がこの町で過ごしたのは2歳から10年余りと言われています。今も吉江町には当時を偲ぶことのできる場所が残っています。

近松門左衛門
ゆかりの地立待地区



鯖江まち歩き



近松の里めぐり情報館

(ちかまつのさとめぐりじょうほうかん) (立待公民館内)

近松門左衛門の誕生から浄瑠璃・歌舞伎作家として活躍するまでを、映像とパネルを使ってビジュアル風に紹介。また、近松の里を巡るための情報を得ることができ、開館中は自由に利用することができます。



ジオラマも
あるよ



近松会館で
無料レンタサイクル
をやっています



西光寺

(さいこうじ)

本願寺第7代法主、存如(ぞんにょ)(蓮如の父)が建てた歴史あるお寺で、浄土真宗が北陸に広がる足がかりとなりました。山門は吉江藩邸の表門を移築したもので、吉江藩の館として現存する唯一の建造物です。



ちかもんくんグッズ

- 近松ものがたり／400円
- ちかまつ うるる読本「ザ・近松」3冊セット／1,100円
- 巻物式ボールペン／100円
- クリアホルダー／100円

立待公民館、まなべの館、鯖江観光案内所で販売しています。



西山公園は、約4万7千株のつつじが咲き乱れる日本海側随一の名所です。春には桜、秋には紅葉など、四季折々の景色が楽しめます。

日本の歴史公園
100選 西山公園

鯖江まち歩き



西山動物園

可愛いレッサーパンダが迎えてくれます。
開園時間／9:00～16:30 入館無料
休園日／毎週月曜日(祝日の場合翌日)



冒険の森「パンダらんど」

西山動物園の人気者レッサーパンダをモチーフにした遊具など、鯖江らしさを取り入れたアスレチックフィールドです。



結びのチャイム

結びの広場にある恋愛成就のパワースポット。ハート型の“愛のビーズ”を結び付けて、絆を深めてください。



上段の庭(じょうだんのにわ)

間部公ゆかりの御陽苑を再現した、四阿(あずまや)のある和風庭園です。つつじまつりの時には野点(のだて)が催されます。



北の庭(きたのにわ)

花菖蒲藤棚のある安らぎの庭園です。6月の開花時期には3,500株の花菖蒲がいっせいに咲き誇ります。



祈りの道

遊歩道に並ぶ約400基の石像。地元彫刻家の指導の下、さまざまな人が思いをこめて彫り上げたものです。

ちょっと休憩



cafe & lunch こころ

蕎麦会館1Fのカフェでは、オーガニック素材を使った日替わりランチ(11:30～14:00)が楽しめます。 営業時間／10:00～18:00
Tel.0778-54-0553



まなべの館

蕎麦溪の一角に建つ博物館。鯖江藩主の書画や遺品、遺跡からの出土品、近松関連の資料などが展示されています。 開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)※催事の内容により変更する場合があります。 休館日／毎週月曜日、祝日、年末年始 Tel.0778-51-5999



これが
目じるしです



漆器神社(しっきじんじや)

敷山神社の境内にある神社です。河和田川と天神川が合流する地点から北東へ500mほどの山の斜面にあります。



ちょっと足をのばして



かわだ温泉 ラポーゼかわだ

パンやパスタ、ピザ作りなどの体験教室をはじめ、温泉やバーベキューが楽しめます。
鯖江市上河内町19-37-2 Tel.0778-65-0012
<http://www.lapause.jp/index.htm>



軒下工房(のきしたこうぼう)

ものづくりの現場を気楽に見ることのできる越前漆器の作り手のグループ「軒下工房」。現場の職人さんとふれ合いながら製造過程を見学したり、絵付け体験をすることができます。詳しくは「うるしの里会館」へ。 問合せ／0776-65-2727



完成!!



桃源清水(とうげんしょうず)

繼体大王が水源を求めて訪れたと伝わる谷に湧くお清水。昔から地域住民の飲料水として利用されています。平成20年「ふくいのおいしい水」に認定。



三場坂清水(さんばざかしょうず)

岩清水とも呼ばれるように、岩から湧き出る清水で水質もよく、昔から地域住民の飲料水として利用されています。平成20年「ふくいのおいしい水」に認定。



鯖江まち歩き

越前うるしの里
河和田地区

河和田地区は1500年余の歴史と伝統を誇る越前漆器の産地です。その中でも河和田町の中道通りには、漆器の工房や昔ながらの家並みなど「うるしの里」らしいまち並みが残されています。

鯖江市へのアクセス

◎東京から

| JR | 所要時間 3時間30分

東京  米原  鯖江

| 自動車 | 所要時間 6時間

東京  米原JCT  鯖江I.C

◎大阪から

| JR | 所要時間 1時間30分

大阪  鯖江

| 自動車 | 所要時間 2時間30分

大阪  米原JCT  鯖江I.C

◎名古屋から

| JR | 所要時間 2時間

名古屋  鯖江

| 自動車 | 所要時間 2時間

名古屋  米原JCT  鯖江I.C



つつじバス

つつじカラーを基本色に、西山公園のレッサーパンダが描かれています。また、河和田線は越前漆器のイメージを取り入れたデザインに。利用料金(1回乗車あたり)/100円

※小学生以下および障害のある人などは無料。※75歳以上の後期高齢者は毎月10日、20日、30日の3日間については無料。



鯖江市マップ

鯖江市は福井県嶺北地方のほぼ中央に位置し、市の中央に細長く伸びる低い丘陵に沿って市街地が形成されています。



鯖江市の主なイベント

1月7日 松阜神社左義長

1月下旬 SABAEスノーフェスタ(西山公園)

2月第1日曜日 殿上まいり(殿上山禅定神社)

2月11日 加多志波神社お面御開扉(川島町)

2月20日・3月2日 すりばちやいと(中道院)

4月中旬 さばえ菜花まつり(日野川河川敷)

4月29日 かたかみ春たんぼ(片上地区)

5月3・4日 越前漆器まつり(うるしの里会館)

5月3～5日 さばえつつじまつり(西山公園)

5月第2日曜日 つつじマラソン(東運動公園)

7月23日 こんか祭り(勘生田町)

8月上旬 やっしきまつり(本町3・4丁目周辺)

9月中旬 神明社祭り

9月下旬 丹南産業フェア(サンドーム福井)

10月5～7日 松阜神社祭り

11月下旬 さばえもみじまつり(西山公園・鶴陽庭園)

11月3日 人形供養(西山公園口商店街)

11月17日 じゃぼんこう(西光寺)

毎月第2日曜日(1・2月は除く) 誠市・ご緑市(本山誠照寺)



越前漆器まつり



さばえつつじまつり 5月3～5日
初夏の鯖江を彩る一大イベント。GWの3日間、楽しい行事が繰り広げられ、期間中は約20万人の観光客が訪れます。



やっしきまつり 8月上旬
多彩な楽しいイベントがいっぱいです。夕方から会場では「やっしきおどり」が行われ、夜更けまで踊りあかします。



すりばちやいと 2月20日・3月2日
長泉寺町の中道院にて行われる加持祈祷。すり鉢型の護摩炉を頭にかぶって無病息災を祈願します。



さばえ菜花まつり 4月中旬
黄色い菜花ロードが続く日野川堤防の河川公園を会場に開催。「さばえ菜花」を楽しむイベントが盛りだくさんです。



さばえもみじまつり 11月中旬～下旬
西山公園東山の「鶴陽庭園」を会場に、もみじのライトアップやもみじ茶屋、物産市、テント市などが開催されます。



誠市・ご緑市 毎月第2日曜日(1・2月は除く)
本山誠照寺境内で開かれる本格的な骨董市。周辺商店街では「ご緑市」が同時開催され、多くの来場者でにぎわいます。

鯖江市が特産化を目指して取り組んでいる農産物



さばえ菜花

鯖江の気候に適合させるために2種類の品種を掛け合わせました。



さばえ夢てまり

糖度14度以上のマルセイユメロンを「さばえ夢てまり」と認定しています。



吉川ナス

1000年以上もの歴史を持ち、一説では加茂ナスのルーツとも言われています。



ブロッコリー

鯖江市では1981年から水田の転作作物として栽培しています。